

11203金属プレス製品製造業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	12	9~10	工場内の包装作業場で、製品が入っているホッパー出口を開けるため、3段の足場（階段）を上がろうとした。手すりを持ったつもりで2段目に上る途中、後ろに重心がかかり、肩から転落して骨折した。	52	1	169	100 ～ 299
2	2017	12	8~9	井戸水ポンプを解体中、本体とパイプを外す作業をしていたところ、上部接続部をパイプレンチで外したとき、自重でパイプが落下し、固定用バイス・レンチ・パイプの間で支えていた両手を挟まれた。	47	7	364	50 ～ 99
3	2017	12	11~12	工場内にて、リーチリフト（1.5t）を使いプレス機にコイル（直径1m、重さ320kg）をセットしようとしていた際、コイルの向きが逆だったため、向きを変えようとリーチリフトの爪にフックで掛けた状態のコイルを人力で動かしたところ、フックが爪から外れ、コイルが手前に転倒し、その際にコイルが右足に当たり負傷した。	54	4	521	30 ～ 49
4	2017	12	10~11	作業場において、架線金物部品（30×20×6mm）をボール盤でタップ切り作業中、テーブルに固定したレールに架線金物部品を送り込んでいた所、押しすぎて手が滑り、ドリル刃に左手中指が触れ負傷した。	47	8	159	10 ～ 29
5	2017	12	8~9	製作所でプレス機安全一工程モードにて加工中に、曲げ角度が一定しないので、寸動モードにて1個加工調整し、2個目に寸動	37	7	154	10 ～

				モードを元に戻さず安全一工程だと勘違いして右手を挟んでしまった。				29
6	2017	12	10~11	工場内作業現場で建築物のプレス加工をしていたときに、プレス機の安全装置を切って足踏み作業をしていたため、右手の中指と薬指を切断し、小指にも怪我をした。	34	7	154	1~9
7	2017	11	17~18	機械の清掃時に、ローラー部分に布が置いてあった為、機械の停止ボタンを押さずに右手で取り除こうとしたところ、ローラーに手を巻き込まれ人差し指、中指、薬指、親指を負傷し、右手甲の皮膚が一部剥がれた。	27	7	163	100~299
8	2017	11	14~15	空調製品の製作を習得するため現場へ出向して製品の溶接作業をしている時、脚立に乗って作業をしており、足を滑らせてしまい、下にある空調製品の上へ右胸から落下し、右胸肋骨を骨折してしまった。	34	1	371	10~29
9	2017	11	13~14	右手で安全治具を持って作業中、誤って作業に必要な左手を機械の上に載せてしまい、左手人差し指を負傷したものである。指の欠損となってしまった。	75	7	154	1~9
10	2017	11	9~10	工場内で35tプレスで鉄加工作業をしている時、両手押しボタンではなく足で踏むボタンで作動させており左手人差し指の第一関節より上部を切断した。	45	7	154	1~9
11	2017	11	10~11	工場内の資材置場にてプラケース8段重の内上4段重を持ち上げプレス機の所へ持って行くべきところ、手が届かず右横資材に右足を掛け4段重を持ち上げた時、バランスを崩し地面に倒れ落ち右大腿骨を骨折した。	69	1	611	1~9
12	2017	11	14~15	当社工場内において、鉄板の段取り作業中、地面に置いてあった鉄板（400mm×300mm重さ2kg/枚）を30枚程作業台（高さ1m）の上に数枚ずつ置いていたが、板木（幅100mm）の上に置いたため、板木が小さくバランスを崩し、誤って鉄板が崩れ右足親指の付根に当たり負傷したものである。	68	4	521	1~9



19	2017	10	15～ 16	当社鉄工作業場にて機械部品を旋盤で制作中、材料をチャックに挟み、バイトで切削した。その後、仕上がりが粗かったため、材料をサンドペーパーで磨いていたところ、左手にはめた軍手がチャックに触れ手袋ごと回転し（機械は手前に回転する）、左手示・中・環指を負傷した。左手が回転した際に慌てて右手で左手をかばったため、右手示指中指も負傷したものである。	76	7	151	10 ～ 29
20	2017	10	15～ 16	トラック荷台より製品の入った箱を降ろすために、車上で箱をトラック端の方へ移動させて、下車する際に、足をとられたのか、足を滑らせたか等の原因で、バランスを崩して落下してしまい、左膝を強打した。	75	1	221	10 ～ 29
21	2017	10	15～ 16	コイルが押さえから外れて落下。それを保全する作業、コイルを定位置に戻す作業を2人（被災者と専務）でしていたら、また外れて落ちた。すぐに2人ともその場から離れようとしたが、被災者の方の軍手がコイルにくっついて離れなかったようでコイルと床の間に指が挟まり事故が発生した。（手の甲が下側で指はコイルとコイルの間に挟まっていた。）	36	7	521	30 ～ 49
22	2017	10	13～ 14	工場一階プレス加工現場45t単発プレス加工機（5号機）に金型をセットし加工を始めたが、不具合品が発生した為、安全器（センサー）を解除し確認を行った。確認後、加工を始めるにあたり解除を戻すことを忘れ、加工を始めたためセンサーが利かず、金型に指を挟んでしまい今回の事故となった。	54	7	154	10 ～ 29
23	2017	10	17～ 18	材料置場にてよろけて滑り木枠の鋭利な、でっぱり部分にあたって、皮膚がえぐれて切れてしまった。	70	2	417	10 ～ 29
				自動倉庫内部品（ステンレス熱交換器、重量2kg）の搬出作業中、搬出口部内の木枠パレット架台部に足を掛け、手作業にて部品で荷下ろしていたところ、バランスを崩し自動倉庫搬出口				30

24	2017	10	9～ 10	付近床部固定してあるフォークリフト止め具の上に左足をのせてしまい左足を捻り損傷した。その後、熱交換器を持ったまま転倒したところに、その熱交換器と床との間で手を挟んでしまい、左手裂傷、骨折となった。	37	2	222	～ 49
25	2017	10	10～ 11	本社工場内のプレス機械の裏にゴミが溜まっていたので、片付けようと思ったときに、敷き詰めてある鉄板が雨の為出入りして、その鉄板が濡れていたために滑って転び手を着いたとき、右手内側の骨を折ったもの。	52	2	417	10 ～ 29
26	2017	9	8～9	工場の二階工作室の前にある研磨機で、朝にH-92切断型上刃の表を研磨して裏を研磨するため研磨台から外そうとした時に、手袋が研磨石にひっかかり右手中指の先を切った。研磨石の回転が止まる前に作業をしたためである。	65	7	153	10 ～ 29
27	2017	9	14～ 15	当社工場内にパワープレス機（60t）使用、菓子缶用鉄板の型抜き作業中、鉄板に油が付着して来た為、取るべく機械横手より左手を差し入れ鉄板を抜き取る作業中、途中で止まっていた上型が落下し左手指第1～3切挫傷（切断）したものである。	61	7	154	10 ～ 29
28	2017	9	9～ 10	工場内で、材料をセットする機械（コイラー）に金属加工のため、材料（重さ500kg・長さ80cm）をセットするためホイストで吊り上げてセット中に、吊り上げていたホイストのワイヤーが切れて（劣化していた）右足に落ちて右足関節部（踵）を内外果骨折した。	39	4	372	1～ 9
29	2017	9	10～ 11	室内作業場の狭いスペースでの洗浄工程の作業中、棚下段の洗浄カゴを取りに行った際、棚の手前に台車が置かれており、カゴが取りにくい状態となっていたため、腰に負担の掛かる無理な姿勢になり、腰をひねって負傷した。	47	19	362	50 ～ 99
			13～	作業者が、当社工場内において自動ロボット機で生産中、パイプ加工品払い出しの左右の昇降リフトの上昇スピードが違うた				100

30	2017	9	14	め、自動運転中スピコン調整する際に、誤って右手薬指爪半分位を、材料固定クランプに入れてしまい指先を挟んでしまった。	19	7	159	～ 299
31	2017	9	8～9	本社工場で、リフトの荷卸し作業の手伝いをしているときに、リフトの運転手が操作を誤り、鉄製のパレットを倒してしまった。その際に、右手を鉄製のパレットに挟んでしまい、また、倒れてきた鉄製のパレットで、頭部を打った。	55	7	611	30 ～ 49
32	2017	9	10～ 11	工場内でプレス機械を操作中、右後ろの台の上にある材料を取り込むのに邪魔な鋼材を移動するため台の前で下にあったスクラップ材の上に乗って鋼材を持ち上げたところ、足が滑り転倒、下にあったスクラップ材に左腕肘下部が当たり裂傷を負い同時に中指・薬指の腱を切った。	35	2	521	10 ～ 29
33	2017	9	15～ 16	工場内東側のトラックピットコイル台にて、2組のコイル材をまとめる作業をしていたところ、そのうちの1組が倒れ掛かったため、被災者が補助として押さえたが、2組のコイル材をクレーンのフックにかけようとした際に、2組ともコイル材が倒れてしまい、右臀部の下を切った。	34	5	521	—
34	2017	9	13～ 14	本社工場1階通路にて、被災者が材料を納品に来た運転手に業務事項伝達の為に工場内通路を歩行中、本社勤務者が内線を使い、会話をしながらバック走行で運転するフォークリフトの左後輪タイヤが被災者の左足に乗り上げた。	58	7	222	50 ～ 99
35	2017	9	16～ 17	工場内の材料切断作業場で切断機による切断作業をしている時に丸鋸の刃が可動する、切断機で材料を切らない時は刃を格納するところ、刃の自重で格納位置まで戻らず、少し刃が材料をセットするテーブルに出ている状態だった。作業者は、その状態に気が付かず次の材料を両手で持ってテーブルに置こうとして、回転した刃に右手中指を接触させた。	54	8	159	10 ～ 29
				プレス第二工場にて、プレス加工された部品が入った取っ手付				

36	2017	9	15～ 16	きのコンテナを持ち階段を下りようとしたところ、踏み面を踏み外し転倒した。その際に左ひざを強打した。現場の状況は、被災現場のプレス作業区域は、工場床面より70cmかさ上げされており、3段の階段が設置されている。転落防止対策は、事後、プレス作業区域の周囲に転落防止の柵を設置した。	66	1	413	50 ～ 99
37	2017	9	11～ 12	当社工場内において、金型の取り外しをするためにハンドリフターを差し込み、持ち上げようとしていた。その時、ハンドリフターを上げすぎたため金型が傾き、とっさに押さえようとして左手人差し指をはさみ負傷した。	49	7	521	10 ～ 29
38	2017	9	9～ 10	工場内プレス機械にて、やかんの部品（縦50mm、横19mm、厚さ1mm）の曲げ加工中、部品をセットしペダルを踏んだ際に、落下した金型と部品の間、右手示指・中指を挟まれ負傷した。	63	7	154	1～ 9
39	2017	9	9～ 10	品物である（1m50cm×1m）の鉄板を左手で持ち上げた際、バランスを崩した、品物が不良品にならない様にバランスを整えた所、鉄板が左脇腹にぶつかった、その際、ゴリッという音がし、一時痛みが治まらず息も出来ない状態で床にしゃがみ込んでしまった。痛みが和らいだので仕事を続け帰宅、帰宅後痛み止めを飲み湿布を貼った、次の日、同じ箇所をぶつけてしまったが、忙しさもあり、我慢をして仕事を続けた。	51	6	521	30 ～ 49
40	2017	8	14～ 15	スチール事業部第二工場にて、フットボタン式のスポット溶接機で、ナットを製品に溶着する加工作業中、製品を加工機にセットし、ナットを右手でセットしている最中に誤ってフットボタンを足で踏んでしまった。その際、右手を加工機から抜くのが間に合わず、機械に右手親指を挟んで負傷した。	28	7	332	1～ 9
41	2017	8	14～ 15	事業場内にて、プレス部品の歪みを取る作業をするために、60tプレス機に金型を取り付ける際に、右手で上型を押さえ、左手でボルトを締めようとしたときに、右手が緩み上型が落下し、	45	4	154	30 ～

				右手親指に上型が当たり負傷した。				49
42	2017	8	15~ 16	同社工場内において、エレベーター部品の材料である鉄板1枚（長さ1150mm、幅661mm、厚さ1.2mm）のバリ取り加工作業中、専用工具の切削刃が材料から外れて抵抗がなくなり、工具が滑った瞬間、左手で押さえていた材料がずれ、土台としていた材料（加工前）の側面に右手拇指が当たり、根元を切創した。	33	8	364	30 ~ 49
43	2017	8	10~ 11	鉄の板（400×1000）を抜く作業をしていた際、抜いたスクラップをスクラップ入れに投げ込もうとして、エッジが手に引っ掛かり、右の手の平を切った。	60	8	521	10 ~ 29
44	2017	8	11~ 12	当社板金加工工場内において、製品の入ったプラスチックケース（幅30cm×奥行25cm×高さ11cm、重さ約1kg）を両手で持って移動していた。通路脇の棚の最下段にあるパレットが10cm程飛び出ていたのに気付かず、躓いて転倒し、左膝をコンクリートの床面に打ちつけて負傷した。	63	2	417	10 ~ 29
45	2017	8	9~ 10	プレス工場において棚卸作業の最中、製品の入ったプラスチックコンテナを両手で持ち、後ろ向きに数歩下がったところ、プレス機に立て掛けてあった脚立に左足がぶつかり、バランスを崩してそのまま仰向けに倒れ、左手を甲の部分から床に打ちつけ負傷した。	64	2	371	30 ~ 49
46	2017	8	11~ 12	当社工場内において、鋼板1枚を移動させる際、ハッカーで両側を引っ掛け吊り上げたとき、片側が2枚引っかかっており、2枚かかっていた方のハッカーが外れてしまい、鋼材が片側だけに吊っている状態で斜めになり、横にスライドして左足を挟んでしまった。	21	4	521	100 ~ 299
47	2017	7	11~12	金型交換中誤って左手中指を挟み負傷する。	54	7	521	1~ 9
48	2017	7	15~16	工場内で、クレーンにつられた金型を下ろす際、金型がクレー	46	4	211	1~



				ンのフックから外れ、足に当たり負傷した。				9
49	2017	7	9~10	工場内にてゲージ（約5kg）を移動させている時に、突然背部に痛みを感じ負傷した。	37	19	921	1~ 9
50	2017	7	14~15	本社工場溶接場で品物（ステンレス製缶体、厚さ2mm×長さ62.3cm×直径102.7cm、12.45kg）を溶接する作業を行っていた。床に立てた状態の品物を溶接機（床から作業台まで104cm）にセットしようとして中腰になり両手で持ち上げた際、右手首に違和感があったので、数秒休んで再度セットしようとして品物を持ち上げたところ、右手首が痛み、動かすことができなくなった。	39	19	921	50 ~ 99
51	2017	7	14~15	当事業場において、金物（縦5cm×横5cm×高さ3cm）を加工するため、25トンプレス機の下型に金物を設置したところ、プレス機の上型が下降し、左手を挟まれ指を負傷した。今後については空気圧制御を行っているロータリージョイントの老朽化が原因と考えられるので交換する。	52	7	154	10 ~ 29
52	2017	7	16~17	当社工場でトイレに入りその後手洗い場から通路に侵入したため、作業中に移動していたフォークリフトに右足親指を踏まれ負傷した。	66	7	222	30 ~ 49
53	2017	7	16~17	自社工場内において、鉄板をシャーリングしていた。シャーリングした加工済の鉄板（縦1.2m・横40cm・厚さ2mm）を脇の壁に立てかけた。その作業が終わった際、作業着のポケットに収まっていたスケールが床に転がり、それを拾おうとしてしゃがみかけたところ、立てかけてあった加工済みの鉄板の切り口に左顔面が当たり負傷したものである。出血が酷かった。	69	8	521	1~ 9
54	2017	7	18~19	加工完成品約25kgのダンボール箱をトラック荷台に積込作業中誤って足元の草で足を滑らせ、箱を抱えたまま後方へ転倒し、後部頸部をパレットの縁に強打負傷したものである。自宅で応急処置及び安静を保った。	69	2	611	1~ 9

55	2017	7	13~14	店内で、チェックアウト業務中にレジ台からサッカー台へ移動しようとした時、右足をレジのカゴの中に入れてしまい、後ろに転倒して背中から倒れてしまい負傷する。	31	8	364	30 ～ 49
56	2017	7	16~17	工場内において、プレス作業をしていた際バリ等が発生したため、作業を中断して機械を操作（金型を上・下型確認する必要がある）切替スイッチが任意の場所を見間違えた。金型を外した後、型を確認して問題がなかったため再び取り付ける際にハンドスイッチで金型をつけながらおろした時に左手を挟んでしまったために事故が発生した。	69	7	154	10 ～ 29
57	2017	7	17~18	派遣先の工場内において、金属加工プレス作業終了後、気分が悪く動けなくなり、病院で受診したところ、脱水症状があり、熱中症とのことで、点滴治療等を受ける。	37	11	719	30 ～ 49
58	2017	6	20～ 21	ロボットを使って溶接作業中に、めまいで座り込み呂律が回らなくなり、足の硬直と痙攣が始まった。	34	11	715	100 ～ 299
59	2017	6	8～9	工場内でプレス機で穴開け加工をしてる時、材料と機械の間に指を挟んだ。	59	7	154	1～ 9
60	2017	6	14～ 15	当社工場において、金型をプレス機に取り付けるために、リフトで機械前に運んでもらい、リフトに乗せてあった金型を降ろすために両手で押して移動していた。金型を押した時、金型がバランスを崩して左に崩れてきた。避けようとしたが避けきれず、金型とプレス機の間で左手を挟み、左手人差し指を負傷した。	59	7	521	30 ～ 49
61	2017	6	19～ 20	当日、当社工場にて、150tプレス機を用いて鉄板（250mm×150mm×2.3mm）の曲げ作業中、休憩の時間になり機械類の電源を落として離脱し、休憩後に作業を再開した際、品物のセット位置がずれたため右手で直そうとしたところ、誤ってフットスイッチを踏んでしまい、安全機のスイッチを入れ忘れていたため、	48	7	154	30 ～ 49

				降りてきたプレスに右手、示指と中指を挟まれた。				
62	2017	6	9~ 10	当時、当社展示場1階作業場で、鉄製品の出荷前にサンダー（ワイヤーブラシ装着）を使いサビ落としの作業をしていたところ、手元から50~60cm程の顔面に3cm程のワイヤーブラシの破片が飛んでしまい、ゴーグルをしていなかった為、左目に刺さり負傷したものである。	27	4	364	1~ 9
63	2017	6	9~ 10	当社工場内でプレス加工作業中、のどが乾いたので水を飲むため席を離れ、再び作業場所に戻り、加工を始めるためにキャスター付の椅子に座り、スタート用ペダルに足を乗せたところ、誤って椅子が動いたため手をついてしまい、右手中指、薬指が機械に挟まれて負傷した。	62	7	154	1~ 9
64	2017	6	17~ 18	塗装場のブースの中の掃除が終わって（2人作業）、カバー（約4.5kg）をつける時に、約1.5mの高さからバランスを崩し、カバーを持ったまま床に落ちた。現場の右端で、足場の無い所の作業であったが、移動足場を使うことをしなかった為である。	60	1	371	10 ~ 29
65	2017	6	9~ 10	第二工場の1000tプレスでフライホイール成形1工程を作業中、成形後のワークを両手で掴んで取り出そうとしたところ、プレスラムが下降してきたため、上型とワークの間に手指を挟まれた。左手の人差し指・中指・薬指、及び右手の薬指・小指を損傷した。	62	7	154	50 ~ 99
66	2017	6	14~ 15	工場の外においてあったパレット（プラスチック製1畳強の大きさ）に載せてある金型（縦20cm、横40cm、長さ60cm、重量40~50kg）をフォーク（バッテリーリフト）に乗せる為に、両手で引きずり落とすように動かそうとした際に、腰を痛めた。	64	19	921	10 ~ 29
67	2017	5	15~	製缶品を製作中、材料（直径約1600mm、重量約330kg）を吊りフックにワイヤーロープにて3点で吊り上げ、約30cm上ったところでケガキ線の確認をするためフランジの裏面を覗き込んだ	39	7	372	1~

			16	時に、腕がワイヤーロープに当たり、フックが外れ材料が滑り落ちた。それと同時に作業者はバランスを崩し、右下腿が材料の下に入り、材料と地面との間に脛の辺りを挟まれた。				9
68	2017	5	11～ 12	プレス工場内において、110tプレスを使用しステンレス製の雨受皿を加工中、積んであった製品が荷崩れを起こし、それを押えようとした時に左手の指を裂傷した。	83	8	521	1～ 9
69	2017	5	14～ 15	派遣先の工場内で、仕事中に機械の清掃をしている時に、左手を肘までローラーに巻き込まれ挫傷した。	50	7	163	100 ～ 299
70	2017	5	13～ 14	プレス作業現場で、プレスした金属製品をAの場所からBのプレス済み製品置き場に両手で持って移動する際、製品と製品の間で右手の薬指を挟んでしまい打撲した。	39	7	611	10 ～ 29
71	2017	5	13～ 14	金型製品置場で、パレット上に保管の金型を移動する為、ハンドリフトの爪部分に金型を滑らして移動作業中、ハンドリフト側に力が加わり、金型をハンドリフト爪部分に固定する前に、リフト爪の先端にのっていた金型がバランスを崩し、支えようとして床と金型の間で手を挟んだ。	47	4	362	100 ～ 299
72	2017	5	16～ 17	本社工場内において、動力プレス機（フットスイッチ式35t）でステンレスSUS30A（厨房部品）の曲げ加工作業をしていた時、下の方から手を出して材料をセットした際、誤ってフットスイッチを踏んでしまい、光線式安全装置を使用していたにもかかわらず、手の位置が低すぎたためにセンサーが反応せず、金型が下降し、右手示指の先端に接触し負傷した。再発防止対策として、光線式安全装置の高さを調整し防護する範囲を広げる、また、作業の際は手を作業台にのせながらの材料設置はしないこととする。	67	7	154	10 ～ 29
73	2017	5	15～	第2工場内でフォーミング機械を清掃していたところ、回転していたロールにウエスが巻き込まれ同時に右手が引き込まれてし	49	7	163	10 ～

			16	まった。				29
74	2017	5	13～ 14	当社工場内でフォーミング加工機の段取り中に、左右にスライドする保護カバー間（クリアランス20mm）に左手の第4指と第5指を挟んでしまい負傷した。	19	7	159	50 ～ 99
75	2017	5	14～ 15	工場にてベンダー作業の段取り中に、F社向け製品を下死点の設定を間違えた状態で曲げ加工を行ってしまい、下金型に過剰な圧力がかかり金型が破損して欠片が飛び散り、作業車の右胸部へぶつかった。	37	4	154	50 ～ 99
76	2017	4	14～ 15	廃棄資材を処分するため、段差下にあるゴミ受けコンテナにつながる滑り台に廃棄資材を流したところ上手くコンテナに入らず、外へ落下してしまったので拾おうとして段差から飛び降りたところ、着地に失敗し尻もちをついた体勢を立て直し、立ち上がったところ左足踵部に激痛を感じ、次第に腫れ始め、引き摺らないと歩けなくなった。	58	1	417	50 ～ 99
77	2017	4	14～ 15	部品置台の下に、空箱と使用しないフットスイッチ等が収納してあった。その状態で手動式スポット機の電極を紙ヤスリで研磨していた時、空箱を足で押したため空箱の角がフットスイッチに当たり、通電状態で電極が下降した。その時上下電極との間に右手人差し指を挟み、爪を破損した。（現在フットスイッチは撤去、現在は手動で起動している）	48	7	339	10 ～ 29
78	2017	4	14～ 15	工場で金型交換中、金型の下に敷くプレートをずらしていた時にバランスを崩してプレートが落下し、左足のふくらはぎに接触し、擦り傷が3本ほど入った。	48	4	521	1～ 9
79	2017	4	13～ 14	パワーリフターで移動させようとした際にかんばん柵が倒れ、被災者が倒れてきた柵と作業台に挟まれ、右腕二本の骨を骨折した。原因は、重量物の作業にもかかわらず一人作業で行っていたこと、斜めにした柵を倒れて来ないようにされていなかった	70	6	229	30 ～ 49

				たこと、パワーリフターの操作ミス、および2台の柵を一度に工事を行っていたことにある。				
80	2017	4	15～ 16	工場内のプレス機（200t）で作業中に金型から製品を押し上げるシリンダーが下りるのを確認せず、左手を入れてしまい誤って左手示指を挟んでしまった。	35	7	154	50 ～ 99
81	2017	4	11～ 12	工場内において、品物に空いている穴（左右2カ所）にリユーターという先端がドリルのようにになっている機械をあて、面取り作業を行っていた。（機械を正面に置いて行う、立ち作業）左側に商品を渡す職員がおり、正面で作業を行い、右側に設置してあるパレットへ品物を流すという流れで行う。右側のパレットへ品物を置いて、体を正面に戻す際によそ見をしたまま戻った為、正面にある機械の位置を確認できず手が機械に接触しケガをした。	66	8	159	30 ～ 49
82	2017	4	6～7	20kg×3枚重ねの鉄板を一度に持ち上げた時、重さに耐えられず鉄板を落としてしまい、その鉄板が右足の甲を直撃した。	32	4	521	10 ～ 29
83	2017	4	8～9	工場内の作業に於いて、150tプレス機の抜きの工程で下部に落ちるスクラップの入るプラスチックケース（縦61.5cm×横38.5cm×高さ20cm）を交換するため、引き出して自分のいた場所の後方へ置き、空のケースをセットして後ろへさがった時にそのケースがある事を忘れてつまずき、身体の左側を下にしてコンクリートの床へ転んでしまった。	45	2	379	10 ～ 29
84	2017	4	15～ 16	丸缶成形作業中、底蓋材補給の時にこぼれてしまい、あわてて拾おうとしたため停止レバー（クラッチ）を操作せずに手を出し、ターレットに挟まれ負傷した。	42	7	159	10 ～ 29
			13～	当社工場内において、新300tプレス機のインナーボディの金型を作業台からハンドリフターに載せる作業中、2人で金型をずらしながらハンドリフターの爪先に金型の端部を載せ、更に金型				100

85	2017	4	14	をリフターの方へ押し込んだところリフターが後進して作業台とリフターの間隙が生じ、その隙間に金型が落ち、金型を押さえていた右手が金型と作業台の間に挟まれた。	24	7	521	～ 299
86	2017	4	17～ 18	当社工場内において、被災者は、400tのタンデムプレスにて鉄板加工中、タンデムプレスでの作業は二人で行い、一人が鉄板を配置しボタンを押すことでプレス加工し、もう一人はプレスされた鉄板を加工台から取り出す作業を行っていた。鉄板を取り出す作業を行っていた被災者は、プレスの安全センサー内部に入り込んで作業をしていたため頭部を挟まれ死亡した。	20	7	154	30 ～ 49
87	2017	3	11～12	当社工場内にて、ブラケット成形機が成形部品の排出エラーで停止した際、設備内に残った部品を取り除く時、排出エラーを解除した後、設備裏側から手を入れ部品を取ろうとしたため設備が作動し、金型に左手小指を挟まれ負傷した。	59	7	169	100 ～ 299
88	2017	3	9～10	溶接加工用の素材置場から運搬用の台車に入った材料を作業場へ動かすため、手で引っ張った際に台車がバランスを崩して自分に向かって倒れ、左足を挟まれ、左足ひざ付近に創傷を負った。	21	6	362	100 ～ 299
89	2017	3	13～14	当社工場内において、20tプレスにて鋼の材料を切断する作業をしていた時、左親指で材料を押さえたまま、ペダルを踏んでしまったため、左親指の先を裂傷した。	68	7	154	1～ 9
90	2017	3	18～19	プレス作業が終了し金型を外したあと、リフトに乗せるため金型を斜めにしようと金型の下を持って動かしている際に、金型が乗っていたマクラから金型が滑り落ち、ボルスタと金型の間隙に左手を挟んだ。	45	7	391	30 ～ 49
				幅7cm×長さ50cm棒状アルミの穴あけ加工の作業のため、7トンワイドプレス機（横幅2m）で作業していた。通常はアルミに下部から左手を添えて作業するよう指導していたが、棒状で短				10

91	2017	3	13~14	いサイズのアルミのため、右手には注意をはらっていたが、体のバランスを取るため左手を金型の上部に添えてしまい、穴あけの足踏みスイッチを踏んでしまった。その際、機械のプレス部分に左手の中指と薬指の先端を挟んで負傷してしまった。	38	7	154	~ 29
92	2017	3	13~14	第3工場L1-3ラインで材料切断加工作業中にポンチングプレス機で材料供給装置が動かなくなったので、駆動部分のVベルトを緩めようとして左手（手袋の着用無し）で引っ張ったところ、モーターが動き出して手前から奥に動くVベルトとモータープーリの間に小指が挟まって被災した。	46	7	154	~ 299
93	2017	3	14~15	銅製部品（約縦50cm・横60cm・幅27cm、25kg位）を1m50cm位の台の上に置こうとしたところ、誤って落としてしまい右足甲を負傷した。	41	4	521	1~ 9
94	2017	3	10~11	工場において、60tプレス機を使用してプレス加工業務を行っていた際、プレス機が作動中に誤って右手を入れてしまい、プレス機に右手薬指が挟まれて負傷した。	44	7	154	~ 29
95	2017	3	13~14	金属類端材置場において、端材（両型ステンレス+1.5,1,200×300mm、重さ約3kg）を箱（1,800×900×1,000mm）に入れる際、端材の内側穴端部に右手示指がひっかかって示指表面を切り、示指第一から第二関節にかけて皮膚表面を欠損した。	43	8	521	30 ~ 49
96	2017	2	9~10	工場内にて定盤の上に製造物を置き、製品の歪みを確認する作業を行っていた。気になる部分を発見したため、定盤から少し離れて確認しようとした時、後方であった半製品（フレーム）に気付かず足を引っ掛けて転倒した。コンクリート製の床に尻もちをつき、大腿骨骨折に至った。	68	2	417	10 ~ 29
97	2017	2	10~11	加工後の製品がスキットの中で傾いてたので二人で直している最中に膝の上に倒れたと思われる。誰もはっきりと見た者がいなかった。	37	6	521	30 ~ 49



98	2017	2	12~13	当社、工場内において、重ね置きしてあるコンテナ（430mm×620mm×300mm）の一番上にある物（高さ約1.8m）を取るため、別のコンテナ（570mm×815mm×420mm）を台にしてその上に上がり取ろうとしたところ、バランスを崩してコンテナから落ち、その際に地面に左手をついて左手関節を負傷した。	68	1	611	1~9
99	2017	2	15~16	プレス機の金型の取りはずし作業中、はずした金型を載せる為にハンドリフトのツメをプレス機の高さに合わせて金型を手で押してプレス機からリフトのツメにスライドさせるように動かしていた時、金型の重みでリフトのツメが傾き金型を押さえていた手の方向に金型が滑りプレス機と金型との間に左手の中指が挟まってしまい負傷した。	55	7	521	10~29
100	2017	2	13~14	本社に派遣中の事故である。自動車部品を入れるパレット（1100×1100×150mm）重さ約20kgを両手で持ち上げようとしたところ、誤って右手小指先端の関節が逆方向に曲がり負傷した。小指に違和感があったが、その日の作業を終え翌日も就業した。途中痛みが出だしたが、現場の判断で定時まで従事した。	42	19	611	50~99

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。